



東京部会(第66回)	
日時:	2014年4月17日(木) 19:00-20:30
場所:	日本大学経済学部7号館7階 7071教室
参加者:	篠原(同志社大)、小巻(日大)、猪瀬(日体大)、梶ヶ谷(海老名高)、大倉(松戸向陽高)、杉田(津田沼高)、升野(筑波大附属中)、山崎(北見北斗高:face time参加)、埴(府中東高)、浅川(蒲田高)、鈴木(日本経済教育センター)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、加藤(日大) [順不同]
<p>【内容要旨】</p> <p>1. 今後の予定 新井先生が準備された「東京部会レポート」にもとづき、篠原先生から報告があった。 (1) 読売新聞東京本社から「よみうり経済教室」(案)の出前授業の講師派遣に関して協力依頼があった。 (2) 次年度の年次大会は東京(日大経済)で開催予定。</p> <p>2. 夏休み経済教室関連: 石山氏から配布された資料にもとづき、プログラムを修正し、講座の細部をつめた。</p> <p>3. 資料と教材に関して 部会資料や教材をアップするサーバー(メンバーのみ閲覧可)を契約する可能性を検討したい。</p> <p>4. 活動報告 (1) 山崎辰也先生がface timeで参加。「身近な都市問題を事例とした「見方や考え方」を深める授業開発」の指導演を説明。 ①昭和40年発行と平成22年国土地理院発行の地形図の比較を通じて、市の変遷を把握させる。 ②北見市では市役所の移転問題が発生。そこから、下記の点を考えさせる教材であった。 (a) ホテルリングモデルを用いた商業施設の集積。(b) 収益にもとづく中心地の地価は?(c)市役所はどこに立地すべきか。 これに対して、歴史的な経緯をどう考えるか、複数均衡をどう考えるか、コンパクトシティとの比較は、などの指摘があった。 (2) 大倉先生から「経済教育と法教育の融合について」にもとづいた提案があった。教科書の配置に沿って生産、分配、消費の観点から経済と法に関わる問題をとりあげ、どのように考えるかを問う教材。 (3) 中沖氏から「国際収支関連統計の見直し」、小巻先生から「国際収支統計の見直し(資金から資産へ)」が配布され、それらにもとづいて説明があった[注:中沖氏からデジタルデータをお送りいただきましたので、必要な方はお申し出ください]。</p> <p>5. 教材提供のお願い(先生方が使えるような教材をウェブに提示するため、ネットワーク宛に送って頂きたい)。</p> <p>次回開催予定:5月29日(木)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部(本館2階中2会議室)。議題は、教材に関するディスカッションほか。</p>	